

会報

大学生協友の会

2023年9月1日
第39号
大学生協友の会発行



〒166-8352 東京都杉並区和田 3-30-22 全国大学生協連役員室 TEL: 03-5307-1111
E-mail: univcoop@univcoop.or.jp ホームページ: <https://unico.itigo.jp/>

2023年度第31回大学生協友の会総会開催報告

去る2023年7月8日(土)

大学生協友の会総会は、足掛け4年に渡る新型コロナウイルス感染症分類が5類に変更されたことに伴い、杉並会館会議室のリアル形式で招集し、また仕切りアクリル板のない開放的なダイニングルームで懇親し、28名が参加しました。



総会は、議長として平田真弓幹事を選出し、伊野瀬十三幹事長の挨拶

その後、大久保事務局長が22年活動報告と決算及び23年活動計画と予算を提案し、古越小夜子会計監査が会計監査所見を報告し了承されました。

その後役員改選を行い、柳ヶ瀬直人さんが退任され、新たに宮田久仁子さん、大澤正男さんが新任され、和久井洋一さんが副幹事長として新任されました。

その後特別企画として「ポストコロナ禍の大学生協の現状」をテーマに大学生協連大築匡広報調査部長から報告を頂きました。

2022年度会員生協合計は、135億円とコロナ禍前の19年度対比で75%の水準に留まり、経常剰余も21年度対比で悪化し、対面授業復活も営業効率の改善に繋がらず、水道光熱費の高騰、各種休業補償など補助金の大幅減などの影響を受けて、一層厳しい経営状況にあること、当期経常剰余は、共済連のコープ共済連への譲渡剰余分配で78億円の黒字を計上できたが、大学生協の持続的な発展を可能とする構造づくりは、今後の不可欠な課題として残されていることなどの報告がありました。

また大学キャンパスの状況も地域毎に異なり、大規模私学を抱える東京や関西地区の利用回復は厳しい状況が続く、また1年生の学生委員ゼロ会員生協が45会員に上り、全体総数も3000人ほど減少していること、22年度学調の動向として、対面授業の復活がありながらも、投稿日数も19年度比を回復せず、正課以外の活動への制約もあり、サークルへの加入率の回復も鈍いことなどの学生の状況に関する報告がありました。

今後の活動として、共済連譲渡に伴う剰余配分で大学生協の「再生」は終わりではなく、始まりであること、会員生協経営の再生を実現する「再生計画」の策定に重点にしながら、人と人のつながりを広げながら、コロナ禍の中で変化する需要への対応、オンラインだからこそこできる活動の推進を進めていきたいとの報告を受けました。

その後、懇親会で近況報告を受けながら、対面での懇親を深め、散会しました。

会員からの取組報告

地域の自治会で活動すること

栗原 義行



大学生協で働いていたときは、地域のことに興味はありませんでした。地域生協や自治会、PTA、子供会などの活動はもっぱら妻の役割でした。大学生協退職後、自治会の活動に誘われ(実は妻が誘われていたのですが断ったので)、理事として活動することになりました。最初の1年は様子見でしたが、例年どおりの踏襲で活動に活気を感ぜられませんでした。2年目から会長が交代し、「防災」に対して関心の強い方であったことから、そのこ

とを中心に大きく活動が広がりました。(動ける新任理事も増えたことも要因です)

防災活動では、

まず地区内にある「消火器」と「防災戸」を、ひとつずつ歩いて点検することからはじめました。他の町会と毎年行っている「防災スキルを学ぶ訓練」を300人規模で行い、また指定避難所になっている小学校で運営訓練を行いました。自治会倉庫の備品も毎年買い足しています。災害時は「在宅避難(自宅避難)」が中心になるため、各家庭が飲料・食品・簡易トイレなどを備蓄しておくこと、指定避難所の場所確認、市の防災アプリを入れておくことなどをまとめたパンフを作り、説明しながら全会員へ配布しました。

防犯活動では、

通学路が抜け道となっているため、交通量が多く大変危険な状況でした。地元住民への説明会、臨時総会を開いて決議を上げ、住民の総意で「スクールゾーン」化による車両

規制を実現しました。そのことをドライバーへ知らせる広報活動を継続して行っています。

夜は町内をパトロールし、必要な照明の取り換えや設置、夜のゴミ出しチェックや注意、最近では回りながら道路に落ちているごみ拾いもしています。このことで町内の状況が把握でき、危険箇所だけでなく空き家や一人暮らしの家の実態もつかむことができました。

環境、文化活動では、

ごみの集積所はゴミネットを利用していましたが、カラスの被害が絶えないため、数年前から折り畳み式のカートへ変えてきています。年2回、町内会の大掃除も100人規模で行います。文化活動では、夏の「子ども夏祭り」、秋は文化企画で音楽コンサートやマジックなどを行っています。今年は、3年間コロナ禍のためできなかった「子ども夏祭り」を、熱中症対策をした上で、100人を超える規模で行いました。

自治会は、みなさまの力を必要としています。

実際自治会活動に参加してみると、大学生協で行ってきた組織活動

そのものだと感じています。違いは、自治会活動を担う役員が高齢であること、実務技術(パソコンを使ったり文書を作成するなど)や運営(総会や理事会の在り方、規約、会計など)が未熟であることなどです。この点で、今までの経験が役立っています。会員に活動を知らせるため、パワーポイントで「広報誌」(左側参照)を作り、回覧板で回すことをはじめ5年目となりました。



日本社会事業大学生協 解散準備に入る経過

東京ブロック事務局
社大生協担当
山下 哲也



日本社会事業大学生協（以下社大生協）は、1970年6月16日法人成立後、既に50年を超える歴史ある大学生協です。1989年4月に渋谷区の新宿から清瀬市へ移転し、生協も新しい施設でこれまでの購買書籍店舗に食堂・喫茶を加えて事業を開始しました。

学部生は約800名です。もともと規模が小さく収支トントンの経営であった生協は、移転

時の設備投資もあり、欠損金を抱え続けてきました。毎年度100万〜200万、多い年度だと300万〜500万の当期損失金を計上し、今日に至っていません。

22年度末の数値では1629万円の累積損失金、組合員出資金額1426万円を超過しています。職員体制は11年度期から常勤役職員を雇用せず、近隣の大学生協との業務委託契約による支援を受け、パートタイマー職員のみの運営です。

その後のコロナ禍に伴い、3年間厳しい登校制限のある環境のなかで社大生協は必要最小限に絞った事業経営を行ってきました。累積欠損金は、19年度・3092万円↓20年度・3173万円↓21年度・2805万円↓22年度・1629万円と推移していきます。

一方、この時期に大学事務局長（法人常務理事）との懇談会をほぼ隔月ペースで実施できるようになり、生協の理事長・専務理事の先生方が大学との交渉の主体となっていたが、大学との合意形成をすすめることができました。

22年秋の懇談会で大学宛に

提出した「日本社会事業大学生協が赤字構造から脱却して、自立した経営体として存続するためのご提案」で、大学生協総体が経営危機にあるなかで、より一層の大学からの全面的な支援をお願いし、この提案に沿った協議を重ねてきました。

23年2月の協議では、生協存続のため全面的に支援を行うか、生協が解散の準備を行うか、との協力・支援を行うかが、大学にとつての選択肢でした。結果は、これまでの生協の累積欠損金を含む経済的な支援までには到らず、同時に生協の後継の事業者に目途が付いたことから、生協が解散準備に入ることの「確認書」を取り交わすことになりました。

同時に社大生協は各方面への影響を最小限に抑えることから、累積欠損金が減少している今のタイミングであるという判断に到り、5月総会で23年度計画として「解散準備を開始する」ことを決定しました。

コロナ禍以降休業していた食堂の施設は4月に大学へ返還し、新しい事業者が5月から食堂の営業を開始しています。購買書籍店舗は7月閉店、8月返還し、

後継の事業者が後期開講に合作して開業します。生協本部は9月以降生協脱退・出資金返還等を行います。今後は年内に解散総会を開催し、24年3月解散、4月以降清算となります。

これから本格化する解散準備は、22年度から社大生協の支援を担当している一橋大学生協をはじめ大学生協グループからの支援を受けながら取り組みます。

2019年秋から早稲田大学生協が担当生協となり、この時から私は社大生協に関わることになりましたが、当時、社大生協の理事長、専務理事の先生方と最初にお話をさせていただいたときのことを思い出します。社大生協の経営数値からは、どう見ても「解散」も考えざるを得ない局面にありました。先生方もやはり心の中には解散ということもありうることから、過去に解散した大学生協の事例を聞かれたりもしました。

今回の解散は無念の限りであり、その時期に関わった者としてとても悔しい思いです。今後このような解散を余儀なくされる生協がないことを願っております。

新幹事自己紹介



大沢 正男

生年月日・出身地

1957年12月19日
東京都出身 生まれてから
ずっと北区に在住

入協の経緯

法政に入学して生協学生委員会に入り、生協の良さを知りそのまま入協。

職歴

1982年3月 法政大学生
活協同組合入協 食堂部 購買部

1985年2月 東京事業連
合 施設担当

1996年～2014年 武蔵学園生活協同組合 東京電機

大学生生活協同組合
東京医科歯科大学生活協同組合
で専務理事

2014年5月 東京ブロッ
ク 武蔵野エリア担当

2016年8月 一身上の都合により1年半残し早期退職

趣味・特技

趣味・特技と言われてこれと言えない物は特にありませんが、退職後は毎朝3キロ程度ゆっくりと走っています。

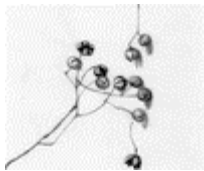
好きな言葉

夢を大切に

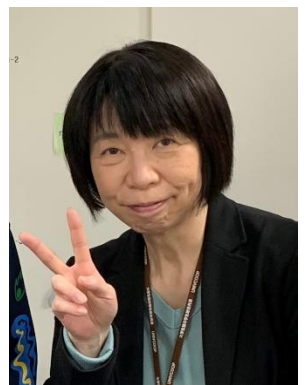
友の会で取り組みたいこと

具体的は何をするのか十分に把握していないので、これから参加する中で何をするか、自分

のできることに精一杯取り組みたいと思います



宮田 久仁子



1980年に埼玉大学入学とともに生協組織部に入り、私の生協人生が始まりました。

埼玉大生協では主に購買とプレイガイド、東京医科歯科大生協では購買書籍店の店長、十文字学園生協では専務理事を務め

させていただき、現在は大学生協共済連から事業譲渡されたグループ共済連に勤務、会員支援部門で中四国を担当しています。

振り返れば常に支えていただいた諸先輩方と、友の会でまた

一緒に過ごさせていただけることはとても幸せに思います。相変わらず頼りない自分ではごさいますが、どうかよろしくお願い申し上げます。

23年度第1回
幹事会開催報告

開催日時…7月8日(土)

場所…大学生協連 杉並会館

出席…伊野瀬、岡安、宮寺、馬場、薄葉、釜田、倉橋、説田、塩谷、柴田、中村、平田、茂垣、和久井、斎藤、大久保(以上幹事)。古越、和知(以上会計監査)

欠席…柳ヶ瀬、山崎、藤村

協議事項

① 2023年度総会議案について

② 2023年度友の会総会当日運営について

③ 2023年第13回会員親睦会開催日程について

・開催日2023年12月2日(土)14時開会予定(杉並会館5階ラウンジ)

④ 2024年第2回幹事会(単独開催)開催について

・開催日…2024年4月6日(土)15時開会予定(12月確定予定)